

組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名：

教育推進機構

部局長名：

菅 誠治

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">関連する 中期計画の番号</p>	<p style="text-align: center;">教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>②研究領域</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">関連する 中期計画の番号</p>	<p style="text-align: center;">研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">関連する 中期計画の番号</p> <p>「岡山大学先端研究講座」及び「岡山大学公開講座」をそれぞれ3件及び40件程度開設する。また、講座の質的な向上を図り、大学の知を地域の皆さまへ分かりやすく伝える地域貢献を推進する。</p>	<p style="text-align: center;">社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>「岡山大学先端研究講座」を3件、「岡山大学公開講座」を65件開設した。全講座のうち、対面実施(オンラインとのハイブリッド形式も含む)が昨年度の42件から65件へ増加し、全体としても実施件数が増加した。また、先端研究講座では、大学の教員が進める先端的な研究プロジェクトの内容を題材としており、昨年度開設の講座とは異なる分野や内容の講座を開設した。開設件数の増加、対面実施の増加、新しい内容の講座の開設により、地域の皆さまに、大学の先端の知を身近に体験してもらう機会を提供できた。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">関連する 中期計画の番号</p> <p>①組織改編後3年目であり、教育推進機構をより安定的に運営する。 ②教職員に対する各種倫理教育、情報セキュリティ教育等を通して、法令遵守の徹底を図る。</p>	<p style="text-align: center;">管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>①令和4年4月1日付けで教育関係組織を再編し、中・長期的な企画・立案機能として教学担当理事を支援する「教学企画室」と、全学教育の実施・支援機能を担う「教育推進機構」をそれぞれ新設し、令和6年3月1日付けで大学院教育を一層高度化・充実させるため、教育推進機構内に「大学院共創センター」も新設した。教育推進機構の機能強化や各部門間の横の繋がりの向上等を目的として、教育推進機構内の広報委員会や教育研究紀要編集委員会、部門会議、センター会議等の各種会議を定期開催し、その実質化を図り、有機的連携体制の構築に務め、運営の安定化を図った。</p> <p>②機構全教員に「公的研究費等の不正使用防止に係るコンプライアンス教育」をe-Learningコンテンツにより受講するよう指示し、また、本学における公的研究費等の不正使用等防止に関する取組を周知し、再確認を促した。加えて、情報セキュリティe-Learningにおける自己点検の実施、個人情報保護研修の受講等、法令遵守の徹底を図った。研究倫理教育については、有効期限切れ等により今年度受講が必要となる教員に対して、e-Learning受講を指示した。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">関連する 中期計画の番号</p> <p>①卒業生・修了生の就職先アンケートに加え、卒業生が多く就職している企業数社の人事担当及び卒業生へのインタビューを行い、本学卒業生の社会での評価(学修成果)や教育の方向性についての具体的な意見を把握する。また、卒業生の就職先アンケートと卒業予定者アンケートを比較し、分析・検証を行う。</p> <p>②入学者選抜の改善のための意見交換・情報共有会の継続実施する。また、入学前教育の着実な実施に向けて、新入生調査の実施及び部局へのヒアリング調査による検証を行い、入学前教育未実施となっている部局での実施を促進すると共に、前年度に実施した入学前教育の改善を図る。</p> <p>③令和7年度よりスタートするTarget2025の準備を進めるため、全学共通科目、英語科目及び全学交流科目の科目編成及びシラバスを確定する。また、「探究科目」及び高年次対象「英語科目」のパイロット科目を再設計・再試行する。さらに、Target2025以降に対応する新たなシラバスの内容を設計し、授業設計・教育方法・成績評価等に関する教員向けFDを展開する。</p> <p>④大学院共通科目としての充実を図るため、大学院共通教育の全体状況についてモニタリングし、その検証結果を全学で共有する。また、CAA制度並びにキャリア共創の開発に関する取組を検討する。</p>	<p style="text-align: center;">センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>(2-1) ①卒業生・修了生の就職先アンケートの集計結果を基に、本学学生が多く就職している2つの企業の卒業生、人事担当者及び上司に本学の教育等に関する事前アンケート調査を実施し、そのアンケート結果に基づきインタビュー内容を再構築し、企業に赴き本学卒業生の社会での評価や求める人材(教育効果)に関する意見等を聴取した。また、卒業・修了生の就職先アンケートと卒業予定者アンケートの比較・集計・分析を行い、企業及び卒業・修了生インタビューでの資料とした。なお、令和6年度卒業予定者アンケートより、卒業後も連絡可能なメールアドレスの収集を開始した。</p> <p>(2-2) ②「入学者選抜の改善のための意見交換・情報共有会」を昨年度に引き続き実施した(第1回10/30、第2回3/21)。本学での面接の実施状況とその在り方についての意見交換や本学を取り巻く入試環境の変遷について、入学者選抜の改善に資する情報共有を行った。加えて、本会の様子を録画した動画をWEB上に掲載し、広く学内においても公開した。また、高大連携事業、入学前教育及び補習教育に関する審議を目的とした「高等学校等との教育連携推進会議」を教育推進機構に設置し、本会議にて入学前教育に関する今までの実施事例(工学部、薬学部、GDP)の紹介、新入生ニーズ調査の結果報告(工学部)、全学部に対する実施事例の調査を行った。本会議の設置により議論や情報交換が活性化し、新たに4学部(教育学部、理学部、医学部医学科、農学部)での入学前教育実施に繋がった。</p> <p>(3-1) ③令和7年度からスタートするTarget2025の新カリキュラムについて、全学共通科目・英語科目・全学交流科目及び移行措置として2年次生用の教養教育科目の科目編成を行い、10月開催の教育推進委員会承認された。さらに、各科目についてシラバス作成を行い、内容の点検も行った。また、「探究科目」及び高年次対象「英語科目」のパイロット科目を設計・実施し、課題の洗い出しを行うなど、来年度からの本実施に向けての準備を整えた。さらに、Target2025教育改革の円滑な実施に向け、シラバス項目の見直しを行い、授業設計・教育方法・成績評価等のシラバス入力ガイドラインを示した「シラバス作成の手引き」を作成し、全学へ展開した。課題探究科目「知の探研」におけるFDを、教育推進機構教員及び部局の担当教員も加えた全担当者向けに実施した。</p> <p>(4-1) ④大学院教育運営委員会において、各研究科の学位プログラムの実施状況等を確認し、全研究科で学生の単位修得状況の調査を行った。加えて、大学院教育のあり方に関する検討・改善に向け、大学院生を対象としたアンケートを実施しており、その際、修了後に連絡可能なメールアドレスの収集も進めた。また、大学院教育改革の政策動向や本学の取組を取りまとめ、大学院共創センター会議において情報共有を行った。新たな認定教授補助者(CAA)制度については、他大学での事例調査を行い、本学での導入に向けた検討を行っている。さらに、学生間の相互成長を促し、主体的な学習活動の活性化・高度化をサポートするMoodleのピアレビュー機能について、各研究科でのプログラム科目への展開のため、同機能のマニュアルを作成した。Moodleのピアレビュー機能及び反転授業への活用方法をテーマにした講習会も実施した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。